

つきたい力

- ・文章を的確に読み取る力（読解力）
- ・語彙を増やすことで、それを活用し、自分の思いや考えを表現する力
- ・自分の考えを、理由や根拠を明らかにしながら伝える力

取組みの概要・ポイント

- (1) 単元でつきたい力を明確にして、魅力のある学習課題（単元のゴール）を設定する。
- (2) 目的をはっきりさせた話し合い活動を行い、対話により理解を深める。

具体的な取組みの内容

「確かな読みの力」を育てるための授業づくり

- (1) 単元でつきたい力を明確にして、魅力のある学習課題（単元ゴール）を設定する。

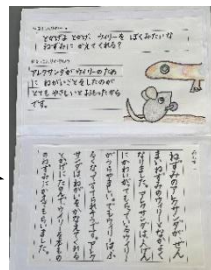
①「つきたい力」を明確にした単元計画

- ・単元の初めに、ゴールを確認し、単元計画を子どもたちと共有する。単元計画は、教室に掲示し、見通しが持てるようにする。子ども自身で、本時のめあてを確認することができるようになった。



②具体的なゴールの成果物を提示

- ・指導者だけでなく、子どもたちが具体的にイメージしやすいように工夫する。ゴールに向かう主体的な姿につながった。



2年単元名『お気に入りブックを作ってしょうかいしよう』
レオ＝レオニ作品の中からお気に入りの作品を選んで、
紹介ブックを作った。

③「やってみたい」「〇〇のために」と思える言語活動の設定

- ・ゴールを目的のあるものに設定する。生き生きと取り組む姿を見ることができた。



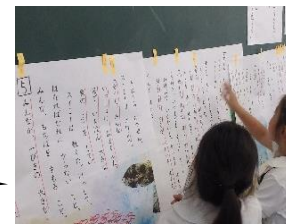
5年単元名『海を守るクラスサミットを開こう』
海を守るためにできることを報告書にまとめ、クラス
サミットを開いた。

- (2) 目的をはっきりさせた話し合い活動を行い、対話により理解を深める。

①全文掲示の活用

- ・文章全体が一覧できることから、一部でなく内容全体を把握しやすくなる。交流の際、付箋を用いることで、交流を促す手助けとなった。

目的意識を持って交流相手を見つけ、交流できた。



②並行読書マトリックスの活用

- ・朝読の時間や、隙間の時間に並行読書を行う。子どもたちの読書の状況を一目で把握することができた。授業では、交流相手を自己決定する様子が見られた。

読書の推進にも繋がった。



③教員によるモデル動画

- ・対話の仕方の見本を教員が動画で撮影し、交流前に児童に視聴させる。モデルを提示することで、具体的なイメージを共有することができた。

交流の約束

- 座って交流する
- 本文を指さしながら、声に出して読む
- 相手の考えに反応する



取組みを通しての子どもの変容

- 単元計画を子どもたちと共有することで、見通しをもって学習に取り組むことができるようになってきた。具体的なゴールを示すことで、主体性が高まってきている。
- 対話することで、自分の考えをはっきりさせたり、考えに自信を持ったりすることを実感している児童が増えた。
- 国語アンケート 「自分の考えを伝えるとき、相手や目的などを意識して伝え方を工夫している」78.4%（4月）→84.0%（12月）
ペアやグループでの目的をはっきりとさせた話し合い活動を続けた結果、肯定的な回答が上昇した。

